

「メディア・リテラシー」 1

メディアと私

メディアとの3つの出会いが、私のこれまでの長い人生の中で、特に思い出に残っています。

その第一は、1959年、私が小学校5年生のときに、家族がテレビを買ったことです。小さな映画館が家に来たようでした。アメリカのアニメの主人公がテレビの画面で活躍していました。それまでは、映画館でしか動画を見ることができませんでした。それが、テレビによっていつでも家で見られるようになったのです。

テレビは小さな映画館であっただけでなく、強力な広告画面でもありました。当時は、アメリカの番組が多くて、私は、アメリカの家庭の豊かな生活をうらやましく思いました。私だけでなく多くの日本人がそう思ったようです。1950年代後半は、テレビ、冷蔵庫、掃除機がよく売れました。それらは、テレビで見たアメリカの家庭にある電気製品でした。そして、1960年代に日本の経済の高度成長が始まると、カラーテレビ、車、エアコンが人気商品になりました。

その後、日本以外の国々でも、経済が発展するときには、テレビが強力な広告のメディアになりました。

第二の思い出は、ワープロ (word processor) との出会いです。1983年、大学教師の私は、とても高価なワープロの機械を大学の研究室で初めて使いました。そのワープロで、有名な先生の講演の記録を一人で作って、学生たちに配りました。ワープロを使えば、本の活字と同じ字で印刷できました。出版社だけでなく、個人でも出版できるようになったのです。社会を一人の力でも変えていくことができるようになるかもしれない、とうれしく思いました。

現在は、インターネットを使って、文字だけでなく、映像や音楽も個人が自由に世界中に発信できるようになりました。一人の人が撮ったスマホの映像がニュースとして、大きな影響をもつこともあります。逆に、一人の人の憎しみが社会に大きく広がっていくこともあります。

メディアとの第三の出会い、アマゾンの Kindle です。2012年、退職の四ヶ月前に買って、通勤の時間など、仕事と仕事の間の時間に、とても長い小説を熱心に読みました。Kindle は小さな文庫本のようなのですが、その中には非常にたくさんの電子書籍を入れることができます。私は本が好きなので、小さな図書館を持っているようなゆたかな気持ちになりました。

紙の本と Kindle の中の電子書籍とでは、どこが違うのでしょうか。電子書籍は保存場所がいないという、よい点があります。でも、紙の本ではぱらぱらとページをめくると、大体の内容が分かるのに、電子書籍では全体をすばやく見ることはできません。その他にも、違う点がいろいろとありそうです。

私にとっては、テレビ、ワープロ、電子書籍という3つのメディアとの出会いが大切な思い出です。みなさんも、今までの人生を振り返って、メディアとの重要な出会いを3つ思い出して、それについて考えてみませんか。そうすると、メディアと自分との関係が少し分かってくるとおもいます。

【本文と関係することの年表】

1945年8月 第二次世界大戦で日本が負けた。

1953年 NHKが日本で初めてテレビ放送をはじめた。

1955年～1973年 日本経済が高い成長をつづけた。

1978年 日本で初めてのワープロ機 (word processor) が作られた。

2012年11月 アマゾンが Kindle を日本で初めて売り出した。

(1311字)

(2020.12 Written by Masami KADOKURA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.